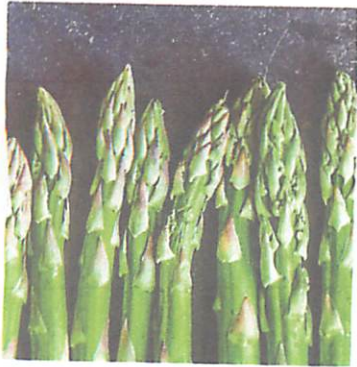
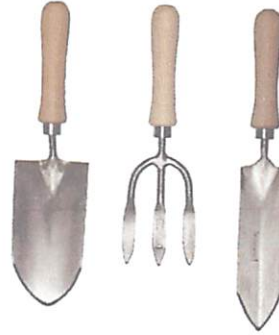
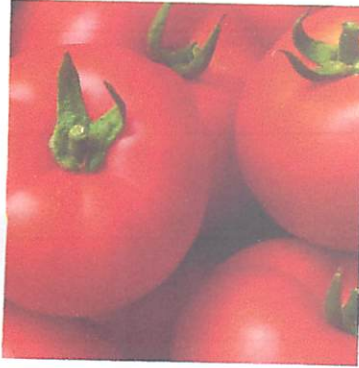


次世代農業ライフ&ビジネス誌 [アグリジャーナル]

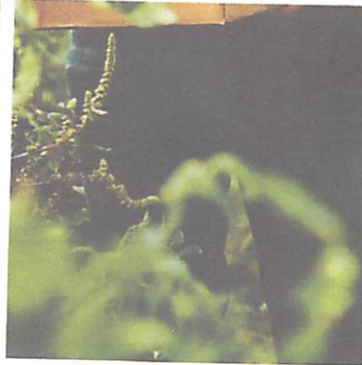
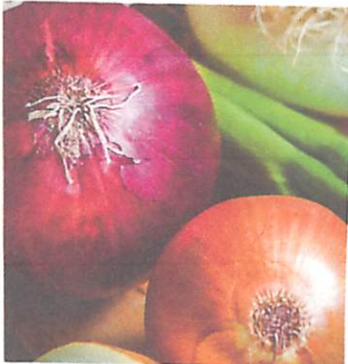
# AGRI JOURNAL

TAKE  
FREE

vol.03  
2017 SPRING



Dreams in  
Agriculture



## 夢ある農業

儲かるスマート農業 / IoT × 新規就農 / 仲間と農業コミュニティ





中央大学大学院戦略経営研究科  
(ビジネススクール) 教授  
杉浦宣彦さん

現在、福島などで、農業の6次産業化を進めるために金融機関や現地中小企業、さらにはJAとの連携などの可能性について調査、企業に対しての助言なども行っている。

MARKET

これからのJA

text: Kiminori Hiromachi

## 6次産業化ビジネスに新展開 パン製造でコメ需要を創出

### 民間企業と提携し商品開発 生産・加工・流通に新モデル

地元農産物を使って、6次産業化ビジネスモデルの構築を目指すJAが増えてきています。そんな注目をされているのが、今年3月1日に締結された「JA会津よつば」と福島市のパン製造販売会社「銀嶺食品」による包括的業務提携。両者は今後、戦略的パートナーとして共同で商品開発を行い、新たな地域ブランドの確立や地域経済活性化に向けた取り組み

を進めていくこととなります。まず計画されているのが、会津で生産された米を、銀嶺食品の工場にパンに加工して、会津の農産物直売所で販売するという試み。原料米には、米どころ会津にあってダブつき気味の業務用米を用います。将来的には、米以外の農産物や畜産物についても加工食品化を図っていきたい考えです。

ここで重要なのは、この取り組みが、たんに原料となる農産物の消費を増やそうというだけのものではない点です。1次産業・2次産業・3次産業が一緒になってシナジー効果を上げる、6次産業化の流れに乗っているところがポイントなのです。もちろん、これがうまくいけば、結果として農産物の消費拡大はついでにきます。

JA

1次(生産)

3次(流通)



地域  
企業

2次(加工)



ここで重要なのは、この取り組みが、たんに原料となる農産物の消費を増やそうというだけのものではない点です。1次産業・2次産業・3次産業が一緒になってシナジー効果を上げる、6次産業化の流れに乗っているところがポイントなのです。もちろん、これがうまくいけば、結果として農産物の消費拡大はついでにきます。

一般にJAには、農産物の生産(1次産業)や集荷・流通(3次産業)のノウハウはありますが、加工製造(2次産業)のノウハウは不足していました。今回の事例のように、この不足している2次産業を民間企業と提携することで補い、地元農産物の6次産業化を実現していく取り組みは、これからますます増えるものと思われれます。

加工製造を意識することは、生産される農産物のスタイルや流通方式を変えていくことにも繋がるでしょう。例えば、ケーキに使われるイチゴなら、形や大きさは生食用ほどこだわらなくてもいいです。農産物の約80%が何らかの加工用だったり、外食用である現状においては、もっと加工を前提にした生産に目を向けるべきなのです。JA会津よつばの取り組みが、福島の農業だけでなく、日本の農業の生産のあり方をどう変えていくことになるか、注目されるどころです。

### 週刊農機新聞

新農林社 発行

- 新聞
- 毎週火曜発行
- 年間1万4900円

農業機械の新製品情報が知りたいなら農機新聞をチェック。その他、農業生産、農機流通、農機試験研究などの動きが、豊富な写真付きで掲載されている。



### スマート農業バイブル

産業開発機構 発行

- 専門書籍
- 2016年10月11日発売
- 2500円

ICTや映像・画像技術を使った次世代農業のヒントと最新情報を多数掲載。就農者の方、これから農業を学ぶ方々にとって実用的な生産手引となる1冊。



### 農村ニュース

国際農業社 発行

- 新聞
- 毎週月曜発行
- 年間1万4500円

栽培技術と機械の関係、バイオ技術、施設園芸、農産加工など、農業構造の変化に対応するための情報を発信。1・4・7・10月には特大号(雑誌)も発行。



### REVIEWS

高みを目指すために  
読むべき

農業  
3誌



# AG/SUM

## AGRITECH SUMMIT

アグサム(アグリテック・サミット) 2017年5月23日～25日

歴史ある産業に、新しい命を。知識と仲間が手に入る、農業のための3日間。

### シンポジウム

16セッション、登壇者70名以上

国内外から集まった専門家たちの議論を聞いて、世界の最先端を学べる

- ▶ 次世代がつくる新しい農業のカタチ
- ▶ フィンテック&アグリテック:成長へのコンビ
- ▶ 食の未来:私たちは岐路に立っている?



小泉 進次郎氏  
衆議院議員



ロブ・レクラーク氏  
AgFunder  
最高経営責任者



佐藤 康博氏  
株式会社みずほ  
フィナンシャル  
グループ  
グループCEO



アンドリュー・アイブ氏  
SOSV, Food-X  
マネージング  
ディレクター



三輪 泰史氏  
日本総合研究所  
創発戦略センター  
シニアスペシャリスト



ヒレル・マイロ氏  
Aquadro Fund LP  
マネージング  
パートナー

+このほかにも業界を代表する方々にご登壇いただきます。詳細については、ウェブサイトにてご確認ください。

### ワークショップ 28クラス

業界をリードする講師が率いる少人数クラスで、気になるテーマをより詳しく、より深く理解できる

テーマ例

- ・ 食品トレーサビリティの最適モデルをつくる
- ・ AIで農業はどう変わるのか
- ・ アグリテック業界を支援する新たな金融モデル
- ・ 新興市場の農業への投資

+このほかにも多彩なクラスをご用意しました。詳細については、ウェブサイトにてご確認ください。

### ハーベスト

新しいビジネスの誕生に立ち会える

### 展示 農業ベンチャー60社以上が参加

IoT、作物保護、農業経営、精密農業など最先端のアグリテックの展示をまわって、未来を発見できる

ECF FARMSYSTEMS ドイツ	PRECISION HAWK アメリカ	ROUTEK NETWORKS 日本	Connecterra オランダ	vegetalia Japan on Science & Technology 日本
AGRIBUDDY カンボジア	m <sup>2</sup> 日本	Descartes Labs アメリカ	flux アメリカ	PLANET TABLE Japan on Science & Technology 日本
SPREAD 日本	Terramera アメリカ	NURITAS LIFE-CHANGING INGREDIENTS アイルランド	kakaxi アメリカ	ARABLE アメリカ

## AG/SUM

アグリテック・サミット  
2017年5月23日～25日

PRESENTED BY NIKKEI

詳細はウェブサイトにて [www.agsum.jp](http://www.agsum.jp)

アグサム

検索 🔍

会場 虎ノ門ヒルズフォーラム  
〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3  
虎ノ門ヒルズ森タワー4階、5階

主催 日本経済新聞社

後援 農林水産省、  
経済産業省(予定)

参加費 100,000円(税込)  
所属先、居住地により割引あり  
(最大90%引き)。5月7日まで早割実施

### パートナー